

日銀利上げ加速観測でも円の価値下落懸念

対非ドル通貨や金銀で円安、金利上昇の制約や打撃など意識

2026/8/24 (月)

為替相場では日銀の9月利上げや利上げペース加速観測でも、円は通貨の価値下落に備えた「ディベースメント取引」の対象となっている。8月中旬以降は米国での対イラン交渉不透明感や財政悪化懸念、それに対する米財務省の米国債安定化「市場介入」等による信認低下、FRB利上げ観測後退などによる全般ドル安を受け、円もドルに連れ安となっている。一方で円は日米協調の円買い介入や日銀利上げ強化姿勢でも、対非ドル通貨や対金銀で再下落となっており、財政懸念や金利上昇余地の制約、一段の金利上昇時のマイナス打撃などが意識されている。

ドルは利上げ後退で下落、円は利上げ観測も下落

「現状の高市政権は日銀の利上げを容認するムードにあるが、利上げ加速や一段の長期金利上昇の場合、日本の企業や個人の間で格差の拡大が懸念される。それが来春の統一地方選や、来年9月前後の自民党総裁選、2028年の参院選などに、どのような影響を与えるのかは政権・与党内で注視されている」。

ある内閣府の経済財政担当はこのような指摘を行う。当座の日銀利上げは円安・物価高の抑制や預金金利の上昇などで世論の支持を受け一方、先行き住宅ローンの現行と新規の利用者、中小企業を始めとした高債務企業の経営、景気や株価などへの打撃が広がり始めると、政権支持率の低下につながる危うさがある。

とくに現在は新NISAなどにより、個人による国内と海外の株式保有が急増となってきた。現状は株高と円安・外貨高などで含み益が増えており、それが資産効果となって物価高による消費悪影響を中和させている。先行き利上げ加速等で国内株の下落と円高・外貨安が進んだ場合、個人の含み益減少や含み損増加へと移行。個人消費は物価高との二重の打撃となり、政権不満の高まりに直結してしまう。

同時に先行き日銀の利上げ加速と一段の長期金利上昇の場合、巨額な政府債務を抱える日本にとっては「利払い負担の累増」という問題が控えている。

日本ではこうした金利上昇の制約や、一段の金利上昇時のマイナス打撃などが覆いかぶさっている。根強い財政懸念もあり、為替相場では現在もなお、円は通貨の価値下落に備えた「ディベースメント取引」の対象となり続けている。

8月中旬以降は米国の対イラン交渉不透明感や財政悪化懸念、米財務省の米国債安定化「市場介入」等による信認低下、FRB利上げ観測後退などを受けた全般ドル安を受けて、円もドルに連れ安となって

いる。一方で円の単体については日米協調の円買い介入や日銀「利上げ強化」姿勢があっても、対非ドル通貨（クロス円取引）や対金銀で再下落となっている深刻な状況だ。金や銀は金利がつかないため、通常、利上げ観測の通貨は対金銀で上昇となりやすく、それほど現在の円は財政や利上げ耐久力などが懸念されている。

最近の為替ドル/円は7月30日前後の介入でドル安・円高が加速されたあと、8月3日からドルが反発、円は反落へと転じている。

その8月3日から直近8月20日にかけての対円の主要通貨スポット（直物）取引の成績リターンによると、対円での上昇率上位には、韓国、南アフリカ、メキシコ、ノルウェー、カナダ、豪州、英国の各通貨が観測されている。米イラン不透明感による資源・商品相場の高止まり観測もあり、資源国通貨の上昇が目立っている。

貴金属相場の対円クロスレートでも同期間には、対円で銀、プラチナ、金、パラジウムが反発となってきた。貴金属相場は3月以降、米イラン紛争による有事のドル買いや、米FRBのウォーシュ新体制での利上げ加速観測などにより、下落となってきたが、8月以降は対ドル、対円で反発に転じている。

金銀が対円で節目回復、クロス円での外貨高支援

ディベースメント取引は、まさに国家が発行する通貨や国債に関して、公的債務の膨張や供給の増加、インフレ上昇リスクに対しての価値脆弱性、世界分断による自国以外の買い手・使い手の減少などが懸念され、米日などで通貨売り・国債売りにつながっている。それに対して特定の国家や財政、ポピュリズム等の政治リスクは関係なく、供給にも制限がある貴金属や暗号資産ビットコインなどが買われるという取引だ。

足元で金の対円クロスレートは週足テクニカルで、13週移動平均線の上抜け回帰と、13週平均の方向角度の上向き転換、52週平均の上抜け維持が見られている。銀の対円クロスレートでも、13週や52週平均の上抜け回帰が観測され始めた。過去実績に沿えば一定期間、対円で金上昇や銀上昇が持続となりやすい。クロス円取引でも、対円で非ドル通貨（外貨）の底上げ実績が見られてきた。

クロス円取引に関して、週間ベースでの外貨高値、外貨安値のメドで参考になるのが、前週末値からの変化幅の直近傾向だ。最近の変動幅の期間別平均は以下の通りとなっている（週間のワールドレート、オセアニア市場からNY市場まで、ブルームバークの

レート进行参考、8月20日時点の直近平均値)。

■ ユーロ/円＝週間高値－前週末値の上昇幅は直近2週間の平均が+2.03円、9週平均が+1.10円、52週平均が+1.22円。週間安値－前週末値の下落幅は2週平均が-0.23円、9週平均が-1.35円、52週平均が-1.09円。

(※参考；前週末値が184.41円の場合、翌週の週間高値メドは前週末値比+2.03円なら186.44円。週間安値メドは前週末値比-0.23円なら184.18円)。

■ ポンド/円＝週間高値－前週末値の上昇幅は2週平均が+2.34円、9週平均が+1.50円、52週平均が+1.57円。週間安値－前週末値の下落幅は2週平均が-0.42円、9週平均が-1.69円、52週平均が-1.39円。

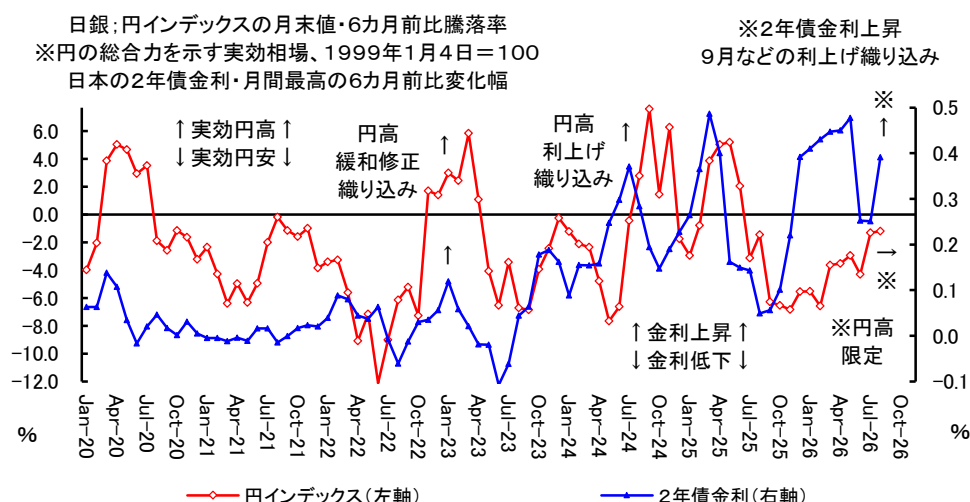
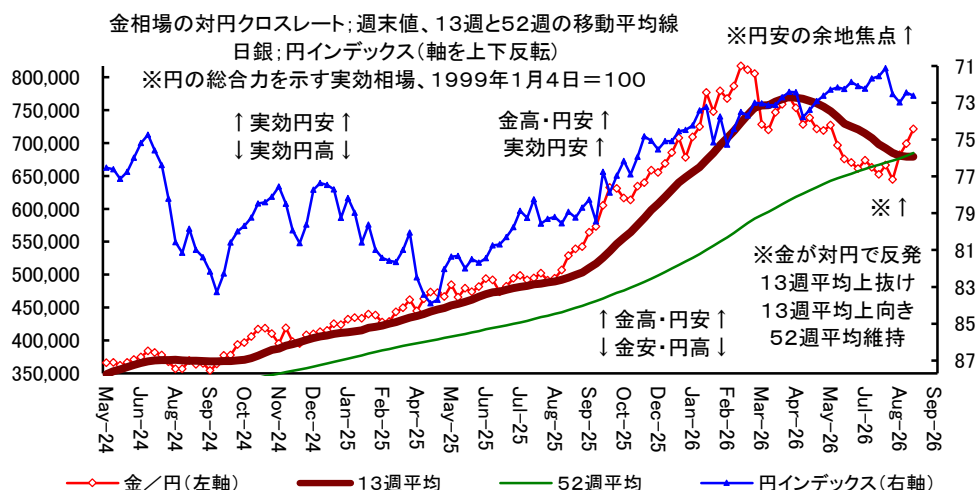
■ スイス・フラン/円＝週間高値－前週末値の上昇幅は2週平均が+2.40円、9週平均が+0.99円、52週平均が+1.44円。週間安値－前週末値の下落幅は

2週平均が-0.25円、9週平均が-1.52円、52週平均が-1.38円。

■ カナダ・ドル/円＝週間高値－前週末値の上昇幅は2週平均が+1.29円、9週平均が+0.79円、52週平均が+0.89円。週間安値－前週末値の下落幅は2週平均が-0.42円、9週平均が-1.00円、52週平均が-0.84円。

■ 豪ドル/円＝週間高値－前週末値の上昇幅は2週平均が+1.21円、9週平均が+0.78円、52週平均が+1.16円。週間安値－前週末値の下落幅は2週平均が-0.36円、9週平均が-1.10円、52週平均が-0.88円。

■ NZドル/円＝週間高値－前週末値の上昇幅は2週平均が+1.13円、9週平均が+0.84円。52週平均が+0.92円。週間安値－前週末値の下落幅は2週平均が-0.59円、9週平均が-0.91円、52週平均が-0.84円。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。